

神話に魅了され白鳥く断夫山く高蔵古墳へ。高座結御子神社から鮮やかな鳥居に導かれ稲荷社に迷い込む。秋の青大悲寺では、荘厳華麗な佇まいに心を打たれる。ここ熱田は赤の世界で人々を魅了します。




1 **誓願寺**
せいがんじ




源頼朝の生誕の地。母は熱田大宮司の娘、由良御前。産湯の井戸がある。弟の源義経は熱田神宮で元服し、大宮司が名付け親といわれる。1529年創建の尼寺で、初代日秀妙光尼が竹千代(徳川家康の幼名)の養育係が縁で「葵の御紋」が門にある。

2 **白鳥古墳**
しろとりこふん



6世紀初め頃に造られた、長さ約75mの前方後円墳。ヤマトタケルノミコトが能煩野で亡くなった時、その魂が白智鳥(白鳥)となって飛び、この地に舞い降りたという古事から、ヤマトタケルノミコトの御陵とされている。

2 **法持寺**
ほうじじ



弘法大師が延命地藏菩薩像を本尊とした小祠に始まる。熱田大宮司千秋家の菩提寺。文人墨客の来訪が多く、各種の句碑が残る。白鳥山の山号は白鳥古墳と深い関係あり。

4 大通り沿いの Little KYOTO

秋には、鮮やかな赤の紅葉の世界に一気に引き込まれる。尼寺であり、如来経の開祖「きの」の説法の記録は「御教様」と呼ばれ、名古屋弁そのままの語り方を特徴としている。

きょう)の破片(破鏡)などが出土。この破鏡は、九州・四国・中国・近畿・東海など20ヶ所から出土していて、弥生時代後期、他地域との交流があったとされる。

代表的な出土品



高蔵遺跡の代表的な出土品には、赤で彩り、幾何学的な模様をほどこした「パレススタイル土器(宮廷様式)」と呼ばれる弥生土器がある。写真の土器は国の重要文化財に指定され、東京の国立博物館に収蔵されている。

旗屋小学校の校庭からは、シカを描いた線刻土器や中国の前漢時代末期につくられた甗龍文鏡(きりゅうもん)の破片(破鏡)などが出土している。破鏡は、九州・四国・中国・近畿・東海など20ヶ所から出土していて、弥生時代後期の遺跡からは、他地域との交流があったことがわかります。

遺跡に関する問い合わせ：教育委員会文化財保護室 972-3268

5 知られざる 映えスポット



高座結御子神社参道途中に高座稲荷社がある。豊臣秀吉が幼少時、母に連れられて参拝したことから、出世稲荷として知られている。

高座稲荷社



5 高座結御子神社

熱田神宮本宮と同時期創建とも言われている。子育ての神様として、毎年6月1日の「高座の井戸のぞき」の行事が有名。授与所にて御朱印が頂ける。



3 断夫山古墳

国指定史跡の前方後円墳。古墳時代後期の6世紀初め頃の築造では、全国屈指の大きさ。全長151m、高さは前方部16.2m、後円部13mで、尾張氏の墓とされる。当時の尾張氏は大陸との交易があり、独自文化と高度な技術力を持っていた。後にヤマトタケルノミコトとミヤズヒメノミコトの恋愛神話として語られ、「夫を断つ=断夫山」の呼び名となった。

6 高蔵古墳群

明治41年の地図によると、高蔵貝塚に隣接する高座結御子神社の境内に、8基の円墳が社殿の西と南に散在して記されている。第一号墳は、径16mの墳丘で横穴式石室を設け、前後に分かれた玄室(遺体を置く室)と通路があり人骨と副葬品(直刀・金環・須恵器・壺・高杯)が出土。7世紀初め頃造。

代表的な出土品

高蔵遺跡の代表的な出土品には、赤で彩り、幾何学的な模様をほどこした「パレススタイル土器(宮廷様式)」と呼ばれる弥生土器がある。写真の土器は国の重要文化財に指定され、東京の国立博物館に収蔵。

近くの旗屋小学校の校庭からは、シカを描いた線刻土器や中国の前漢時代末期につくられた甗龍文鏡(きりゅうもん)

遺跡が知られるきっかけ

明治40年(1907)に道路の拡張工事が行われた際、多くの土器が出土。これをきっかけに詳細なスケッチなどがまとめられ、明治41年5月、東京の「人類学雑誌」に発表。弥生土器と石器が同時代のものであることを明らかにしたことは、その後の弥生文化研究に大きな影響を与えた。



高蔵公園

